

# 2019 年度 事業報告書

自 2019 年 4 月 1 日  
至 2020 年 3 月 31 日

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

## 目 次

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 概 況 .....                           | 1  |
| 1. はじめに .....                       | 1  |
| 2. 連盟全体 .....                       | 2  |
| 3. 事業別概況 .....                      | 3  |
| I. 競技会事業（公益目的事業 1） .....            | 9  |
| 1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1） .....         | 9  |
| 2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2） .....     | 10 |
| 3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3） .....      | 10 |
| 4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9） .....        | 10 |
| II. 普及事業（公益目的事業 2） .....            | 11 |
| 1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1） .....      | 11 |
| 2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2） .....        | 12 |
| 3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3） ..... | 12 |
| 4. 広報（公益目的事業 2.4） .....             | 15 |
| 5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9） .....         | 16 |
| III. 国際交流事業（公益目的事業 3） .....         | 17 |
| 1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1） .....       | 17 |
| 2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2） .....    | 17 |
| 3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3） .....    | 18 |
| 4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9） .....       | 18 |
| IV. 収益事業等 .....                     | 19 |
| 1. 公認（収益事業等 1） .....                | 19 |
| 2. 商品販売（収益事業等 2） .....              | 19 |
| V. 法人・管理部門 .....                    | 20 |
| 1. 会員・会友 .....                      | 20 |
| 2. 理事会・会員総会 .....                   | 21 |
| 3. 組織運営 .....                       | 22 |
| 4. 常設委員会・特別委員会 .....                | 22 |

## 概 況

### 1. はじめに

2019 年度の事業計画は、当連盟の中長期的な課題である次の 3 点について、継続あるいは強化して取り組んでいくこととした。

課題 1：財務的に強固な事業基盤を構築すること

課題 2：普及活動をブリッジセンターに定着させること

課題 3：プレイヤーの高齢化に対応すること

課題 1 に関しては、ブリッジフェスティバルを隔年開催にしたことで収支的に安定した。初めて非開催とした 2015 年度及び開催した翌 2016 年度との合算で 400 万円強の黒字、同様に非開催の 2017 年度及び開催した翌 2018 年度の合算は約 330 万円の黒字であった。しかし約 870 万円の黒字予算であった非開催の 2019 年度は、2020 年 1 月から新型コロナウイルスの拡散の影響を受け、約 130 万円の赤字となった。

また、2019 年度はスポーツ振興基金に対して 2019 年 6 月 APBF の派遣費用に関する助成金の申請を行い、200 万円の交付が認められた。スポーツ振興基金の活用は、2017 年 11 月に JCBL が JOC 準加盟団体として承認されたことの効果である。2020 年度以降も国際交流事業に対し公的支援が受けられることが期待できる。

課題 2 に関しては、ブリッジセンターの普及活動はかなり定着してきた。2019 年 12 月までは計画通りほぼすべてのブリッジセンターで体験教室および入門講習会が定期的に行われた。しかし 2020 年 2 月以降は新型コロナウイルスの拡散の影響を受け、2020 年 3 月に計画していた体験教室の多くは中止となった。

2017 年度から実施している「優待券進呈キャンペーン」は 3 年目を迎え、申請件数が 43 件であった。新聞広告の効果が伸び悩みを見せているため、口コミを活用した新規プレイヤーの獲得を重視していきたい。

課題 3 に関しては、2019 年度は引き続き若いプレイヤーの獲得に取り組んだ。小学生から高校生を対象にブリッジの体験、入門の場を提供する橋之介くらぶは、3 センターで継続的に開催した。5 大学で展開している大学授業ではカリキュラム、指導方法が習熟し学生のレベルの向上が見られた。20 代から 40 代の女性を主な対象とする社交ブリッジ、20 代から 50 代の男性を主な対象とするゲーム愛好家向けブリッジの活動をそれぞれ支援し、新しい参加者の獲得につながった。

高校生や若い女性プレイヤーの競技会での活躍が目立った。春季リジョナルでは高校生 2 名と大学生 2 名のチームが 3 位に入賞する快挙を見せた。2020WBG ウィメン日本代表選抜試合に 20 代のプレイヤーを含むチームが勝利した。2019APBF ユース選手権のヤングスター部門で高校生プレイヤー 2 名を含む日本代表チームが 2 位に入賞し 2020 年の世界選手権の切符を獲得した。

大学生を中心とするユースチームもナショナル、リジョナルで好成績を挙げた。2019 年度の日本リーグ 2 部の後期では 20 代で構成されたチームが 1 位と 3 位を占め、次期の 1 部での活躍が期待される。高松宮杯では 20 代で構成されたチームがフライト B で優勝した。

高齢のプレイヤーがより参加しやすい環境作りとして、バリアフリーおよび AED の設

置の推進を行った。

以下では、2019 年度事業計画の基本方針に沿って事業活動の概況について述べる。

## 2. 連盟全体

2019 年度は、連盟全体の課題を①収益増加、②経費削減、③将来への投資の 3 つに集約し、引き続き業務執行体制の強化、事業の効率化とともに公益に資する事業運営に努め、各事業部の事業計画に沿って計画的に事業を実施した。

### (1) 収益増加

「本年度の予算編成に関しては、来年度のブリッジフェスティバル開催による赤字を織り込み、それを補って 2 年度通算で収支均衡予算となるような黒字を目指す。具体的には昨年度からブリッジフェスティバル開催を除外した 2 億 2 千万円の事業予算で、最終的には 870 万円程度の黒字を見込む。」

当期経常増減額のうち経常収益については 2 億 2,748 万円を見込んでいたが、実績では 1 億 9,207 万円となり、予算に対して 3,541 万円の不足となった。実際には商品販売事業の内部取引消去額が約 666 万円になり、それを含めても約 2,875 万円の収益減となった。経常費用については当初予算では 2 億 1,874 万円を見込んでいたが、実績では 1 億 9,339 万円（内部取引消去前は 2 億 0,005 万円）になり、約 2,535 万円（内部取引消去前は約 1,869 万円）の改善が見られた。経常収益では主催競技会収益が対予算比 975 万円の減収、公認競技会収益が対予算比 1,372 万円の減収となった。

競技会参加者数を見てみると、主催競技会、公認競技会ともに前年度をわずかに下回った。最終的に 1,316,264 円の赤字決算となった。

「競技会事業においては、会員・会友の高齢化に伴う参加者数の減少を防ぐ競技会運営を検討し、新規プレイヤーの競技会参加定着を図る。初心者者の競技会参加頻度が上がるような競技会運営を目指す。」

2019 年度は初心者大会に対して、地方在住の△20 のプレイヤーの招待および参加賞の提供を行い、サロンなどから競技会への移行促進を図った。競技会への移行促進を目的とした△5 向けのウィークリークラス 1 のチーム戦であるサロン対抗戦を四谷 BC および横浜 BC で開催した。

2018 年度末の会員・会友数は平成 2017 年度末の 7,636 人から若干減少して 7,578 人であった。2019 年度も入会や紹介のキャンペーンを継続したが 2020 年 1 月～3 月は新型コロナウイルスの影響で新入会員が増えず、2019 年度末の会員・会友数は若干減少して 7,499 人となった。

2017 年度から知人の紹介の活性化を狙う新たな施策として「優待券進呈キャンペーン」を実施しており入門講習会の受講者増加には一定の効果が見られたが、入門講習会受講開始から入会までには相応の時間が必要である。受講者の 2 年目以降の継続と入会に期待したい。

### (2) 経費削減

「本年度は事務局職員の世代交代により、人件費が減少する。5 月に新規採用する若手

職員、及び中堅職員の育成を行い、事務局の新しい体制の構築を進めていく。マニュアル化や作業効率化を図り、作業の確実性を高めていく。」

本年度は事務局長、競技会事業部長が新任となり、世代交代の促進とともに人件費の抑制が行われた。5 月から新規採用した若手職員には、1 年目から幅広い業務を体験させ育成に努めた。

経費削減については、2019 年 11 月に事務所を同ビルの地下 1 階へ移転し、その結果賃借料が微減し、清掃費、及び光熱費においても一定の削減効果が見られた。

「普及事業においては、広報において、ブリッジの一般的な知名度の向上を目指す広告掲載から、具体的な体験教室、入門講習会の告知広告を重視する方向への移行を強め、効率的な宣伝活動を行っていく。」

広報活動は、首都圏を中心とした全国の体験教室の告知広告を 2019 年秋、及び 2020 年春の 2 回、各体験教室の開始のタイミングに合わせて新聞等へ掲載を行った。秋の体験教室は、地域差やセンターによる効果の大小はありつつも一定の効果が認められた。残念ながら 2020 年春の告知広告については、新型コロナウイルスの影響により 2020 年 3 月の予定されていた体験教室はほとんどが開催中止となった。

### (3) 将来への投資

「若い世代のプレイヤー獲得のため、橋之介くらぶ、ユースプレイヤーの育成、学生リーグ運営、大学授業の実施、社交型イベント、ゲーム愛好家の活動の支援を行う。」

橋之介くらぶ、ユースプロジェクト、学生リーグの支援、大学授業の実施を行い、小学生から 20 代後半までの若い世代の育成に取り組んだ。2019 年度は社交型イベント「Light bridge」及びゲーム愛好家の活動「Table cruise」の支援を行い、ライトな社交型ブリッジとコアな競技ブリッジの両面から 20 代～50 代への比較的若い層へのアプローチを行った。

「講習会やサロンプレイヤーの競技会への移行を後押しするため、首都圏初心者大会への地方参加者の招待、競技未経験者を主な対象とした競技会の開催などを行っていく。」

首都圏初心者大会 4 大会に参加賞及び賞品の提供を行い、活性化を行った。同大会に地方の△20 プレイヤーを各 1 ペア招待した。

「新たな形態のブリッジサロン、ブリッジを楽しむ場を拡大し、初級プレイヤーにも対象を拡げた魅力あるプレイ環境を構築していく。」

講習会を受講中、および講習会を卒業しサロンで楽しんでいるプレイヤーを主な対象としたサロン対抗戦を 2019 年 6 月に四谷 BC で開催し 14 チームが、2019 年 10 月に横浜 BC で開催し 10 チームが、それぞれ参加した。

## 3. 事業別概況

### (1) 競技会事業（公益目的事業 1）

#### 【競技運営】

「主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハ

ウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。」

2019 年度は予定していた連盟主催ナショナル 10 競技会、同リジョナル 5 競技会を全て滞りなく開催した。

#### 【ブリッジフェスティバル】

「2015 年以降ブリッジフェスティバルを隔年開催とした。本年度は非開催年にあたり、横浜スイスチーム、横浜オープンペアのみ 2020 年 2 月に開催する。」

2020 年 2 月開催の横浜スイスチームに 19 チームが、横浜オープンペアに 44 ペアがそれぞれ参加した。

#### 【競技会の向上】

「中長期的な課題として、引き続きよりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。」

競技会用ボードを追加購入し、ボード組込が必要な主催競技会の全てを組込ボードで運営した。藤山杯の競技会形式の予選・決勝から 2 日制への変更を 2019 年度も継続した。

#### 【JTOS】

「競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）については競技会事業部が継続して保守にあたることとし、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム（ブリッジメイト）の貸与及び導入支援を継続する。」

2019 年度は JTOS Ver 3.4.60 をアップデートした。

ブリッジメイトのファームウェアのアップデートを導入クラブに通知し、アップデートを依頼した。

地方リジョナルへのブリッジメイトの無料貸し出しを実施し、その他の希望クラブには有償で貸し出した。

#### 【ディレクター育成】

「ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。これまで隔年に開催してきたナショナルディレクター養成プログラムを見直し、3 年ごとに行うこととした。同プログラムは本年度には実施せず、来年度に行う予定とする。」

毎年 3 月に開催しているクラブディレクター講習会は新型コロナウイルスの影響により 2020 年度に延期とした。

ナショナルディレクター養成プログラムは次回の実施は 2020 年度を予定する。

#### 【ブリッジの規則改正】

「デュプリケートブリッジの規則が 10 年ぶりに改正され、日本では 2018 年 3 月 31 日から施行された。本年度は WBF から発行された規則の解説などの日本語化を行い、新規則への対応の周知を行う。」

2018 年 3 月 31 日に施行された新規則移行のスムーズな定着に努めた。WBF から発行された規則の解説の日本語化と周知を行った。

## (2) 普及事業（公益目的事業 2）

## 【広報活動】

「2018 年アジア競技大会のメディア報道による知名度の向上を生かし、ブリッジの各現場の参加者の増加を目指す。体験教室、入門講習会の告知活動、ブリッジを紹介する動画の制作と YouTube などに公開していく。」

アジア競技大会のメディア報道による好影響があり、ブリッジの体験教室、橋之介くらの参加者が好調に推移した。ブリッジの入門者向けの書籍の売り上げも増えた。ブリッジ紹介動画の作成については完成が見えるところまで進めた。

## 【入門講習会】

「各センター・クラブと連携し、体験教室、入門講習会の参加者の増加を図る。利用者が増加傾向にある「優待券進呈キャンペーン」の継続、センター・クラブの周辺地域での体験イベントの開催を行っていく。」

優待券進呈キャンペーンの 2019 年度の利用者は 43 人であった。サンケイリビング主催のハンドメイド作品展示・販売イベント「リビングマルシェ横浜」、及び「リビングマルシェ柏」に出展し、新規プレイヤーの獲得を行った。

## 【初心者競技会参加の支援】

「初心者競技の楽しさを感じてもらおうよう、賞品を充実させ初心者競技会への参加を支援する。地方参加者の無償招待をすることで、地方の競技参加層を拡大させる。競技経験のない人を主な対象とした初心者競技会を開催する。」

四谷、渋谷、高田馬場、大船の各 BC の各 1 回の初心者大会に賞品及び参加賞の提供及び地方の△20 のプレイヤー1 ペアの招待を行った。

## 【体験イベント】

「ブリッジを知らない人に体験してもらう場を開催し、ブリッジの宣伝と新規プレイヤーの獲得を行う。国民文化祭、ねんりんピック、ゲームマーケット東京・関西、及び霞が関子ども見学デーなどに出展する。」

イベントへの体験ブースの出展は予定通り実施した。国民文化祭新潟は競技会、体験コーナーを同時並行させる形で出展した。ねんりんピック和歌山では地元のプレイヤーと連携して体験教室を開催した。

## 【子どもおよびユース】

「橋之介くらは、四谷・横浜・大船の 3 会場でブリッジを体験し基礎を学ぶ機会を提供する。ユース支援は、講習会や合宿の開催と補助、競技会への誘導、クラブ活動の支援を行い、大学生を中心としたユースプレイヤーを育成する。」

橋之介くらは 3 会場で年間を通して開催した。ユース支援は全国の高校生及び大学生を対象とした講習会の開催、合宿の支援を行った。

## 【大学でのブリッジ授業の開講】

「大学でブリッジ授業を開講し、ブリッジの宣伝とブリッジに理解のある若い世代の確保に努める。東京大学・早稲田大学・青山学院大学・明治大学・大阪大学でそれぞれ実施する。」

2019 年度は 5 大学で順調にブリッジ授業が実施された。各大学とも講師、アシスタントの経験が増し指導方法が習熟してきている傾向が見られた。

【若い成人向けの普及活動】

「20 代～30 代が中心の社交型ブリッジ及びゲーム愛好家向けブリッジは参加者の確実な確保と運営方法の向上が図られており、それらの活動を継続的に支援することで、若い世代のブリッジの楽しみかたの選択肢を広げていく。」

社交型ブリッジ「Light Bridge」は第 10～14 期までの合計 10 回、ゲーム愛好家向けブリッジ「Table Cruise」は第 27 回から第 37 回までの合計 11 回開催された。

【普及用コンテンツ】

「普及スタンダードシステム(リスト A)のリスト B 版や入門用の練習ハンドを用意し、ブリッジ普及現場を支援する。」

入門用の練習ハンドの一部作成を行った。

【京阪神の普及活動】

「カルチャースクールと連携して一般層の取り込みに力を入れる一方で、若い世代に対しては競技会に積極的に誘致してレベルアップにつなげる。」

名古屋、京都、大阪における活動はカルチャースクールの重要性が高く、各スクールと連携して新規プレイヤーの育成を行った。若い層の競技会の誘導については、柳谷杯関西代表選抜試合において学生 3 チームが参加した。

【その他各地域の普及活動】

「福岡、札幌、仙台及びその他の全国各地域の普及活動に対して、広告宣伝への協力や体験教室の開催の支援を行う。地元と連携し、コンテンツの提供及び指導ノウハウの共有などを行う。」

福岡、仙台の広告宣伝への協力を実施し、体験教室の参加者の確保に努めた。札幌の初心者大会への参加賞の提供を行った。

(3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

【第 52 回 APBF 選手権】

「2019 年 6 月にシンガポールで開催される第 52 回 APBF 選手権に、従来のオープン、ウィメン、シニアに加えて新設されたミックスを含む合計 4 つの代表チームを派遣する。世界選手権のアジア代表枠については、本年度は世界選手権開催国の中国を除いた 3 カ国に与えられることもあり、全てのカテゴリーでの代表権獲得を目指す。また、大会に併せて開催される APBF 代表者会議に役員を派遣する。」

第 52 回 APBF 選手権ではウィメンが 3 位入賞を果たし、シニアとともに世界選手権の出場権を獲得した。メン及びミックスは出場権を逃した。

【第 44 回世界ブリッジチーム選手権】

「2019 年 9 月に中国の武漢で開催される第 44 回世界ブリッジチーム選手権に APBF の代表権を獲得したチームの派遣を行う。」

第 44 回世界ブリッジチーム選手権においてウィメンチームは 24 年ぶりのベスト 8 進出を果たした。シニアチームは 18 位に終わった。

【APBF ユース選手権、世界ユースチーム選手権】

「2019 年 4 月にタイのバンコクで開催される第 22 回 APBF ユース選手権にジュニア、ヤングスター、及び初参加のガールズの各代表チームを派遣する。2019 年 8 月にクロアチアのオペティヤで開催される第 6 回世界ユースオープンブリッジ選手権にジュニア、ヤングスターの代表チームを派遣する。」

第 22 回 APBF ユース選手権ではヤングスター部門が 2020 年に開催される世界選手権の出場権を獲得した。第 6 回世界ユースオープンブリッジ選手権にジュニア、ヤングスターの両チームを派遣した。

【国際大会の開催】

「2020 年東京オリンピック・パラリンピックを契機に、日本での国際大会開催を目指す。」

開催を目指したものの実現には至らなかった。

【2022 年アジア大会】

「2022 年中国の杭州市で開催される第 19 回アジア競技大会の参加に向けた準備を進めていく。日本オリンピック委員会への加盟継続、日本アンチ・ドーピング機構への加盟を行い、国際総合スポーツ競技会に参加していくための環境整備をする。」

2022 年の優先派遣種目の選定及び代表選抜のスケジュールを決定した。派遣種目は 2019 年の APBF 選手権、世界選手権、及び 2020 年の世界選手権の 3 大会の結果を基に決定することとした。

(4) 収益事業

① 公認事業（収益事業 1）

「公認事業関連業務は公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連携し、より円滑かつ適正な事業運営となるようシステム化、効率化を進めていく。」

2016 年度行った CCG 公認料、非会員の主催競技会での参加料、および非会員のセクショナル以上の公認競技会での公認料の 3 つの改訂について、定着している状況を確認した。

② 商品販売事業（収益事業 2）

「在庫管理や販売方法など関連業務の見直し及び効率化を図る。」

在庫管理やウェブからの商品発注に対する回答などの自動化について検討を行った。

(5) 管理部門

「昨年度に引き続いて新入会無料キャンペーンを継続する。2014 年度から 2016 年度の無料キャンペーン利用者は無料期間終了後も高い継続率を維持しているため、新入会者の確保を最優先としそのための施策を実施する。」

2014 年度から 2016 年度の無料キャンペーンの利用者は、無料期間終了後も 80% 弱が会友として継続している。十分な継続率であると考えられ、新入会キャンペーンを今後も継続する。

「各センター・クラブとの連携の強化、プレイヤーにとってもより魅力のある連盟を目指し、事務局員のブリッジ愛好者への対応の向上を図る。事務局業務の改善と職員の世代交代の促進に取り組み、マニュアル化を推進する。」

事務局員の世代交代に向け、業務の効率化を推進するとともに具体的な業務の引継ぎを開始した。

「内部統制力の向上のため、連盟内システムの改善に取り組む。」

業務達成評価シートを活用し、面談によってそれぞれ課題を明確にして取り組むよう指導した。事務局会議を2週間に1度開催し、各自の業務予定の発表とともに事務局全体への周知、上司からの指示を伝えた。

「進展する高齢化社会に対応し、弾力性のある事業基盤の構築をめざす。」

バリアフリー及び AED の設置に関する助成を継続した。競技会においてステーションナリーの活用を行った。

## I. 競技会事業（公益目的事業 1）

## 1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

## ① 主催競技会

- 2019 年度は以下の競技会を主催した。

| 競技会名                  | 日 程                   | 開催<br>日数 | 場 所                            | 参加<br>卓数 | 前年度    |
|-----------------------|-----------------------|----------|--------------------------------|----------|--------|
| 1) ナショナル競技会（全国大会）     |                       |          |                                |          |        |
| 玉川高島屋 S・C 杯           | 4 月 13、14 日           | 2 日      | 玉川高島屋 S・C                      | 57 卓     | 57 卓   |
| 全日本地域対抗選手権<br>（関東予選）  | 5 月 11、12、<br>18、19 日 | 4 日      | 四谷 BC                          | 24 卓     | 26 卓   |
| 藤山杯                   | 6 月 29、30 日           | 2 日      | 四谷 BC                          | 38 卓     | 39 卓   |
| 外務大臣杯（予選・決勝）          | 8 月 31、9 月 1 日        | 2 日      | 四谷 BC                          | 25 卓     | 18 卓   |
| 高松宮記念杯                | 9 月 14、15、16、<br>21 日 | 4 日      | 四谷 BC/<br>五反田 BS               | 66 卓     | 80 卓   |
| 高松宮妃記念杯（予選・決勝）        | 11 月 2、3 日            | 2 日      | 四谷 BC                          | 31.5 卓   | 33.5 卓 |
| 全日本女子ペア選手権<br>（予選・決勝） | 10 月 5、6 日            | 2 日      | 四谷 BC                          | 29.5 卓   | 35 卓   |
| ブルーリボン杯               | 12 月 22 日             | 1 日      | 四谷 BC/名古屋 BC/<br>大阪 BC         | 78 卓     | 81 卓   |
| レッドリボン杯               | 12 月 22 日             | 1 日      | 高田馬場 BC/<br>大阪 BC              | 22.5 卓   | 29.5 卓 |
| 朝日新聞社杯                | 1 月 11～13 日           | 3 日      | 四谷 BC/五反田 BS/<br>高田馬場 BC/渋谷 BC | 120 卓    | 127 卓  |
| 2) 日本リーグ              |                       |          |                                |          |        |
| 1 部                   | 前期：4・7 月              | 4 日      | 四谷 BC                          | 16 卓     | 16 卓   |
| 2 部                   | 後期：12・1 月             | 4 日      |                                | 24 卓     | 24 卓   |
| 3) リジョナル競技会           |                       |          |                                |          |        |
| 柳谷杯                   | 4 月 6、7 日             | 2 日      | 四谷 BC/<br>高田馬場 BC              | 84 卓     | 87 卓   |
| サントリー杯                | 4 月 29 日              | 1 日      | 四谷 BC/<br>名古屋 BC/大阪 BC         | 67 卓     | 76.5 卓 |
| 井上杯（予選・決勝）            | 5 月 25、26 日           | 2 日      | 四谷 BC                          | 19 卓     | 21 卓   |
| 井上歌子杯                 | 5 月 26 日              | 1 日      | 四谷 BC                          | 28.5 卓   | 30.5 卓 |
| 渡辺杯                   | 3 月 21、22 日           | 2 日      | 四谷 BC                          | 中止       | 39 卓   |
| 4) 社会人リーグ             |                       |          |                                |          |        |
| 社会人 IMP リーグ           | 11 月～3 月              |          | 各会場                            | 12 卓     | 12 卓   |

- 2019 年度も前年度優勝者を招待した。地方予選通過・地方クラブ推薦による参加者に対しては交通費・宿泊費の助成を実施するとともに、前日宿泊の宿泊費を助成した。

内訳：交通費補助・前泊補助の対象はチーム戦 5 競技会 24 チームと、ペア戦 3 競技会 40 ペア、補助総額は 360 万円。

- ナショナル競技会は参加者数が全般的に例年より減少している。

## ② 横浜ブリッジフェスティバル

- 2019 年度は隔年開催である横浜ブリッジフェスティバルの非開催年度にあたり、2020 年 2 月 8 日に横浜スイスチームを開催し 19 チームが、2 月 9 日に横浜オープンペアを開催し 44 ペアがそれぞれ参加した。

## 2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

2019 年度は以下の事業を実施した。

### ① 競技会運営管理システム

- 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い随時バージョンアップしたβ版を提供した。ブリッジメイトを使用するセンター/クラブに対してはアップデート情報を提供した。不具合の発生したブリッジメイト端末を各クラブから預かりメーカーに送付して修理した。

### ② 競技会運営環境の整備と維持

- 主要競技会の予想参加者数に応じて、複数の会場（主に首都圏ブリッジセンター）に会場提供を依頼し、参加者数に対して余裕のある会場スペースの準備・確保に努めた。

### ③ 競技委員会

- 寺本直志理事を委員長として以下の 12 名が委員として活動した。

委員：ロバート・ゲラー、浅越ことみ、齋藤千鶴乃、桜井雅子、山後秀幸、佐々部君敏、西田奈津子、正村祐一、林伸之、横井大樹、吉田正、仲村篤志

- 定例委員会を 6 回開催した。

### ④ ルール委員会

- ロバート・ゲラー理事を委員長として以下の 2 名が委員として活動した。

委員：松田神一、宮内宏

## 3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

2019 年度は以下の事業を実施した。

### ① ディレクター講習会

2020 年 3 月 22 日（日）に四谷ブリッジセンターでクラブディレクター養成講習会の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止とした。

### ② ナショナルディレクター養成プログラム

2019 年度はナショナルディレクター養成プログラムの非実施年度であった。

### ③ ディレクター承認

競技委員会においてクラブディレクター 20 名、セクショナルディレクター 2 名を承認した。

## 4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

- 競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

## II. 普及事業（公益目的事業 2）

### 1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベント関連事業を以下のように実施した。

#### ① 文化・教育関連イベント出展

| 事業名              | 主催団体    | 実施場所      | 実施時期     | 日数 | 受益対象者の範囲    | 参加人数<br>(延べ) |
|------------------|---------|-----------|----------|----|-------------|--------------|
| 国民文化祭            | 文化庁     | 新潟県       | 9月28~29日 | 2日 | 一般          | 30名          |
| ねんりんピック          | 厚生労働省   | 和歌山県      | 11月9~11日 | 3日 | 一般          | 150名         |
| 霞が関子ども見学デー       | 文部科学省   | 文部科学省     | 8月7日     | 1日 | 小学生及びその保護者  | 200名         |
| 第12回関西ジュニア・ペア碁大会 | 日本ペア碁協会 | 大阪サンライズビル | 10月6日    | 1日 | 小中学生及びその保護者 | 40名          |

国民文化祭及びねんりんピックでは、地元のプレイヤーの協力のもと体験イベントを開催し、ブリッジの普及宣伝と地元クラブへの誘導を図った。

小学生及びその保護者を対象とした霞が関子ども見学デー、小中学生及びその保護者を対象とした関西ジュニア・ペア碁大会への出展では、体験者が増え好評を博した。

#### ② 他団体主催イベント

ゲームマーケット東京（2019年5月25日～26日開催、来場者102名。2019年11月23日～24日開催、来場者68名）にそれぞれ出展し、ブリッジを体験する機会の提供及びゲーム愛好家向けのイベントの紹介を行った。2020年3月8日に出展を予定していたゲームマーケット関西については新型コロナウイルスの影響により開催が中止となった。

サンケイリビング社主催イベント「リビングマルシェ横浜」（2019年11月19日開催、来場者60名）、「リビングマルシェ柏」（2019年11月28日開催、来場者10名）に出展し、おもに40代～50代の女性に向けた体験教室を開催した。

#### ③ 子ども向け体験イベント

##### ・ 橋之介くらぶ体験イベント

2017年9月より開始した大船BC、四谷BC及び横浜BCの3会場で橋之介くらぶイベントを開催した。小学生から高校生及びその保護者にミニブリッジを体験、練習できる機会を継続的に提供し、ブリッジの認知度・イメージの向上を図るとともに将来のブリッジ界を担う若いプレイヤーの育成に取り組んだ。

##### 年間開催実績

| 事業名       | 実施場所別回数 |      |      | 実施時期    | 参加人数<br>(合計) |
|-----------|---------|------|------|---------|--------------|
|           | 四谷BC    | 横浜BC | 大船BC |         |              |
| 体験／入門／練習会 |         |      |      |         |              |
| 体験教室      | 3       | 3    | 2    | 通年      | 12名          |
| 橋之介道場     | 8       | 0    | 9    | 通年      | 44名          |
| 大会        |         |      |      |         |              |
| お楽しみ大会    | 1       | 1    | 1    | 5,7,12月 | 32名          |

##### ・ 橋之介くらぶ運営

2019 年度の橋之介くらぶへの新規入会者数は 5 名（2018 年度 18 名）、年度末時点での会員数は 108 名（同 128 名）、各種イベントへの延べ参加者数は 88 名（同 102 名 ※ジュニアのみ）であった。

子ども向け広報活動として季刊誌『橋之介くらぶ通信』の編集・発行（6 月、9 月、12 月、3 月）を行った。このほか、会報橋之介くらぶコーナー・ウェブサイトの子ども向けページの記事の編集・作成・掲出、チラシ・ポスター制作・配付、登録者向けのイベント情報のメール配信などの広報活動を行った。

## 2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会等を開催する事業を「講習会等の開催」としてまとめ、以下の事業を実施した。

### ① ユース向け講習会

意欲あるユースプレイヤーの育成を目的とする「ユース育成プロジェクト」の一環として、強化プログラムによる技術向上支援を行った（「ユース育成プロジェクト」の国際大会派遣事業は公益目的事業 3.2）。

#### A) 育成プロジェクト（公益目的事業 2.2）

2019 年度の代表選手及び 2020 年度代表候補登録者を対象に、練習会、講習会、国内競技会参加（反省会形式の講習会を含む）、代表選考試合等で構成される育成プロジェクトを実施した。参加者には、プロジェクト指定の 4 競技会（柳谷杯、横浜 INV、高松宮記念杯、朝日新聞社杯）と特別講習会への参加費を助成した。遠方からの参加者には、交通費・宿泊費の助成も行うとともに、各講習会には講師を派遣した。

ユース育成プロジェクトの 2019 年度の登録者数は 80 名（前年比 7 名増）だった。

#### B) 国際大会への派遣（公益目的事業 3.2）

2019 年度は以下の国際大会への代表選手派遣または参加支援を実施した。

- 第 17 回世界ユースチーム選手権

会 期： 2019 年 4 月 5 日～4 月 11 日

開催地： タイ（バンコク）

内 容： 26 歳未満のジュニア、ヤングスター、ガールズの各チーム計 18 名を派遣し、航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代を助成した。

- 世界ユースオープン選手権

会 期： 2019 年 8 月 20 日～8 月 29 日

開催地： クロアチア（オパティア）

内 容： 26 歳未満のジュニア、ヤングスターの各チーム計 12 名を派遣し、航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代を助成した。

### ② 入門講習会のカリキュラム制作

入門用練習ハンドの一部作成を行った。

## 3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供およびノウハウの支援を行った。

### ① 一般支援

体験教室・入門講習会を開催して愛好者を増やしたいという会員・会友の自己負担を

軽減する支援を継続し、開催場所・回数増を図った。また、カルチャースクール講座では通常支払われないアシスタント料を助成することにより、良質なブリッジ講座の開催を支援した。

- ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する体験教室の助成

12 都道府県の教育現場や文化祭、地域イベント、国際交流イベント、老人福祉センター、公民館、ブリッジセンター、ブリッジクラブで、会員・会友が開催した体験教室の講師／アシスタント料、会場費、交通費を助成した。

地域別実施状況内訳

| 地域  | 参加者数    | 件数    | 助成額        |
|-----|---------|-------|------------|
| 北海道 | 32 名    | 3 件   | ¥40,000    |
| 宮城  | 107 名   | 3 件   | ¥56,480    |
| 栃木  | 84 名    | 10 件  | ¥108,000   |
| 群馬  | 28 名    | 2 件   | ¥39,280    |
| 埼玉  | 6 名     | 1 件   | ¥19,040    |
| 東京  | 493 名   | 62 件  | ¥668,340   |
| 千葉  | 31 名    | 6 件   | ¥61,400    |
| 神奈川 | 103 名   | 15 件  | ¥162,922   |
| 静岡  | 90 名    | 2 件   | ¥50,200    |
| 大阪  | 105 名   | 11 件  | ¥151,320   |
| 広島  | 3 名     | 2 件   | ¥12,200    |
| 福岡  | 35 名    | 3 件   | ¥35,620    |
| 合計  | 1,117 名 | 120 件 | ¥1,404,802 |

- ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する入門教室の助成

8 都道府県及びジャカルタ、シンガポールで会員・会友が開催した入門講習会の講師料、会場費、交通費、及びクルーズのアシスタント料を助成した。

地域別実施状況内訳

| 地域   | 参加者数  | 件数   | 助成額        |
|------|-------|------|------------|
| 北海道  | 34 名  | 4 件  | ¥378,000   |
| 宮城   | 9 名   | 2 件  | ¥199,200   |
| 埼玉   | 9 名   | 1 件  | ¥55,200    |
| 東京   | 96 名  | 18 件 | ¥772,436   |
| 千葉   | 5 名   | 1 件  | ¥92,340    |
| 神奈川  | 66 名  | 4 件  | ¥622,316   |
| 山梨   | 3 名   | 1 件  | ¥13,500    |
| 福岡   | 16 名  | 4 件  | ¥190,420   |
| 海外   | 19 名  | 3 件  | ¥54,450    |
| クルーズ | 45 名  | 1 件  | ¥144,000   |
| 合計   | 302 名 | 39 件 | ¥2,521,862 |

- カルチャー講座助成

7 都道府県で開講されているカルチャースクール講座 56 件について、アシスタント料、講師・アシスタント交通費および講師料（規定金額に満たない場合のみ）の助成を行った。

地域別実施状況内訳（アシスタント交通費助成を含む）

| 地域  | 参加者数  | 件数   | 助成額        |
|-----|-------|------|------------|
| 東京  | 275 名 | 22 件 | ¥612,410   |
| 埼玉  | 63 名  | 7 件  | ¥197,984   |
| 千葉  | 35 名  | 9 件  | ¥392,668   |
| 神奈川 | 22 名  | 2 件  | ¥39,200    |
| 長野  | 22 名  | 4 件  | ¥167,237   |
| 愛知  | 66 名  | 8 件  | ¥380,860   |
| 大阪  | 29 名  | 4 件  | ¥223,118   |
| 合計  | 512 名 | 56 件 | ¥2,013,477 |
|     |       |      |            |
|     |       |      |            |

- 地方活性化活動（地方クラブ支援）

全国のブリッジクラブによる普及活動を奨励し、イベント企画・体験教室スタッフ派遣・賞品提供など必要な支援を行った。

長崎チェス&ブリッジクラブ主催「第 12 回長崎居留地まつりブリッジ大会新人戦」に優勝グラスおよび APBF2012 福岡記念カードセットを寄贈した。（9 月）

## ② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- 東京大学ブリッジ講座（14 年目）

講座概要： 前期・後期 各 14 回、2 単位

実施場所： 東京大学駒場キャンパス

講師： 浅井潔

支援内容： 講師及びアシスタント 1 名の派遣、四谷ブリッジセンターでの最終授業（1 日）開催、教材コピー、発送など事務業務、受講学生への JCBL 会報配付支援を行った。

結果： 単位取得者 47 名

- 早稲田大学ブリッジ講座（11 年目）

講座概要： 前期・後期 各 15 回

実施場所： 早稲田大学

講師： 並木亮

支援内容： 講師及びアシスタント 4 名の派遣、交通費、会場費、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 単位取得者 38 名

- 青山学院大学ブリッジ講座（8 年目）

講座概要： 前期・後期 各 15 回

実施場所： 青山学院大学

講師： 島村京子

支援内容： 講師及びアシスタント 6 名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 単位取得者 97 名

- 明治大学ブリッジ講座（6 年目）

講座概要： 前期・後期 各 14 回

実施場所： 明治大学

講師： 清水映樹

支援内容： 講師及びアシスタント 4 名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用

具その他授業経費支援を行った。

結果： 単位取得者 36 名

• 大阪大学ブリッジ講座（5 年目）

講座概要： 前期 15 回

実施場所： 大阪大学

講師： 大橋正幸

支援内容： 講師及びアシスタント 4 名の派遣、交通費、教材コピー、発送、用具その他授業経費支援を行った。

結果： 単位取得者 15 名

③ 学校・学生支援

• 学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立ち上げ、用具提供）

要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の立ち上げや新入部員獲得活動に対する支援やクラブ活動に必要な教材・用具等の提供を行った。

対象クラブ：7 クラブ

• 学生クラブによる他大学や他サークルの友人・知人への PR 活動推進支援（費用支給）  
要請に基づき、他大学や他サークルの友人への PR 活動への支援を行った。

• 学生リーグ主催の学生選手権への参加費用助成

学生リーグ主催の学生選手権および学生合宿に今回初めて参加した学生の宿泊費・交通費の一部を助成した。

夏季学生選手権・合宿

開催日：2019 年 9 月 4 日～9 月 9 日

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加人数：73 名（うち受益対象者、33 名）

4. 広報（公益目的事業 2.4）

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行った。

① 広報宣伝 PR 活動

- 2019 年度に実施した媒体への広告掲出は以下のとおり。

|          | 掲出媒体                   | 回数  |
|----------|------------------------|-----|
| イベント告知広告 | サンケイリビング新聞社主催イベントブース協賛 | 2 回 |
|          | 11 月 19 日 リビングマルシェ横浜   |     |
|          | 11 月 28 日 リビングマルシェ柏    |     |

• センター主催体験教室・講習会告知広告

河北新報 5 月（宮城）15.2 万円

朝日新聞 9 月・3 月（東京・神奈川・千葉）：284.8 万円

毎日新聞 9 月～3 月（関東）：13.1 万円

産経新聞 2 月（大阪）・3 月（関東）：48.4 万円

西日本新聞 9 月（福岡）：32.4 万円

• その他の広報宣伝活動

プレスリリース配信：10 本

- 「普及通信」ウェブ版を隔月更新した。
- 20 代から 40 代の女性を主な対象とした社交型ブリッジの普及活動「light bridge」を支援した。
- 20 代から 50 代の男性を主な対象としたゲーム愛好家向けのイベント「Table Cruise」の活動拡大を支援した。

② プロモーション活動

- ネットゲーム環境として BBO に開発した JCBL 専用ルームの利用者拡大を図り、HP を通じた誘導を行った。

③ 出版物の刊行

- ブリッジをテーマにした小説の制作、出版を目指して情報収集を行った。

④ ウェブサイト運営

- 助成に関する規定や説明をより見やすくする目的で HP の階層を検討した。2015 年 1 月に改訂した助成制度のさらなる定着を図った。

⑤ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配布

- 普及のための広報ツールやプロモーショングッズを適宜作成・配布した。

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

- 普及ネットの運営を行った。
- ブリッジ・インストラクターの登録管理と登録証の発行を行った。

### III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

2019 年度も (1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援、及び(3)国際的競技団体との交流の 3 事業を通じて、ブリッジの普及・発展への寄与に努めた。

#### 1. 国際競技会的主催（公益目的事業 3.1）

2019 年度は国際競技会を開催せず、2020 年以降の APBF 競技会の日本開催を目標に資金を積み立てた。

#### 2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

##### ① 日本代表選抜

- 2020 年度に代表を派遣する 2020 ワールドブリッジゲームズの日本代表選抜試合を開催した。参加チーム数がオープン 1、ウィメン 2、ミックス 5、シニア 2 であったため、オープンは選抜試合を行わず、ウィメン、シニアは 2019 年 11 月 16、17 日に、ミックスは 2020 年 2 月 1、2 日及び 2 月 15、16 日にそれぞれ選抜試合を行った。遠隔地からの参加者には交通費と宿泊費を助成した。
- 代表チームの国内ナショナル競技会参加料及び練習会の費用を助成した。

##### ② 国際競技会派遣

##### ・ 第 52 回 APBF 選手権

2019 年度は 6 月 11 日から 6 月 20 日に、シンガポールで第 52 回 APBF 選手権が開催された。

代表者会議には吉田理事が APBF 幹事長として、寺本、山田理事が代表委員として出席した。

日本から以下の、オープン 1 チーム（全 12 チーム）、ウィメン 1 チーム（全 10 チーム）、ミックス 1 チーム（全 11 チーム）、シニア 1 チーム（全 16 チーム）を派遣した。

オープン：ロバート・ゲラー（PC）、加来浩、田中秀悟、田中陵華、寺本直志、古田一雄、横井大樹

ウィメン：小池和人（NPC）、大手瑠利、佐藤牧子、下保俊子、福吉由紀、宮国亜矢子、柳澤彰子

ミックス：前田尚志（PC）、上田哲也、上田真理子、高崎恵、成田秀則、野田裕之、野田祐子

シニア：大政哲人（PC）、井野正行、今倉正史、大野京子、山田彰彦、山田和彦  
試合成績はオープン 8 位、ウィメン 3 位、ミックスが 7 位、シニアが 8 位であった。メンバーには交通費、宿泊費の助成を行った。

##### ・ 第 44 回世界ブリッジ選手権

2019 年度は第 44 回世界ブリッジ選手権が 9 月 14 日から 9 月 28 日まで武漢（中国）で開催され、第 52 回 APBF 選手権でアジア代表権を獲得したウィメンおよびシニアの 2 チームを派遣した。

試合成績はウィメンが 24 チーム中 6 位となり、24 年ぶりのベスト 8 進出を果たした。シニアは 24 チーム中 18 位であった。

##### ③ 国際競技会派遣（ユース）

2019 年度は以下の競技会への参加を支援した。

- 第 23 回 APBF ユースチーム選手権が 4 月 5 日から 11 日にバンコク（タイ）で開催され、ジュニア、ヤングスター、ガールズの 3 チームを派遣した。

ジュニア：遠藤瑛輔、金子雄大、西村優作、Derek Neo、日野雄之、吉田和博  
 ヤングスター：井上布武、小野想真、川端須開、芹川祐輔、滝澤憲、松本颯  
 ガールズ：内山香、後閑優里菜、駒本理恵、坂口美伊、土井茉莉花、吉川奈津美  
 試合成績はジュニアが 8 チーム中 7 位、ジュニアが 7 チーム中 2 位、ガールズが  
 8 チーム中 8 位であった。

### 3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、2019 年度は以下の事業を実施した。

#### ① 世界同時大会への参加

- 2019 年 6 月 7 日～6 月 8 日に開催された 2019 年世界同時大会開催に参加協力  
 6 月 7 日（金）：4 クラブ、158 名参加（全世界：21 ヶ国、194 クラブ、7,482 名参加）  
 6 月 8 日（土）：7 クラブ、196 名参加（全世界：23 ヶ国、130 クラブ、4,506 名参加）

#### ② WBF ユース支援同時大会への参加

- 2019 年 8 月 12 日～12 月 11 日に開催された 2019 年 WBF ユース支援同時大会に参加協力  
 8 月 12 日（月）：1 クラブ、12 名参加（全世界：5 ヶ国、268 名参加）  
 8 月 14 日（水）：3 クラブ、98 名参加（全世界：6 ヶ国、438 名参加）  
 10 月 14 日（月）：1 クラブ、16 名参加（全世界：6 ヶ国、124 名参加）  
 10 月 16 日（水）：3 クラブ、128 名参加（全世界：7 ヶ国、422 名参加）  
 12 月 9 日（月）：6 クラブ、180 名参加（全世界：7 ヶ国、366 名参加）  
 12 月 11 日（水）：4 クラブ、136 名参加（全世界：5 ヶ国、426 名参加）

#### ③ 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集

- ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催状況の提供
- APBF 加盟国の競技会開催情報の提供
- WBF 加盟国の競技会開催情報の提供

#### ④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員・会友に提供した。

### 4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

- 国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出した。

## IV. 収益事業等

### 1. 公認（収益事業等 1）

#### 収益事業等 1.1 競技会の公認

##### ① クラブ・センター主催競技会の公認

- 当連盟が公認するブリッジセンター及びブリッジクラブが主催する競技会（ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲーム）を公認した。

| レイティング | 競技会数  | 2019 年度<br>卓数 | 2018 年度<br>卓数 |
|--------|-------|---------------|---------------|
| ナショナル  | 20    | 197.5         | 218.5         |
| リジョナル  | 43    | 1,246.0       | 1,452.25      |
| セクショナル | 2,328 | 34,472.25     | 37,722.5      |
| ローカル   | 118   | 492.0         | 551.75        |
| CCG    | 1,199 | 10,354.5      | 11,432.25     |
| IMP    | 548   | 2,768.0       | 3,035.0       |
| 合計     | 4,256 | 49,530.25     | 54,412.25     |

##### ② マスターポイントの認定・管理

- マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行った。

マスターポイント証発行枚数：67,019 枚

2019 年度認定したマスター位の人数は以下の通り

|                |       |
|----------------|-------|
| ダイヤモンドライフマスター： | 2 名   |
| ゴールドライフマスター：   | 20 名  |
| シルバーライフマスター：   | 53 名  |
| シニアライフマスター：    | 117 名 |
| ライフマスター：       | 114 名 |
| シニアマスター：       | 127 名 |
| ナショナルマスター：     | 137 名 |
| マスター：          | 145 名 |
| ジュニアマスター：      | 226 名 |

#### 収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

##### ① ブリッジクラブの公認と育成

- 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努めた。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行った。
- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置支援、バリアフリー工事助成を行った。

##### ② 競技会開催支援

地方リジョナル 5 競技会にディレクター派遣費用の助成を行った。

### 2. 商品販売（収益事業等 2）

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の仕入れと販売を行った。

## V. 法人・管理部門

### 1. 会員・会友

#### ① 入退会の状況

会員／会友数(2020年3月31日現在)

| 会員資格   | 2020/3月 | 2019/3月 | 増減   |
|--------|---------|---------|------|
| 正会員    | 52      | 58      | △6   |
| シニア正会員 | 86      | 87      | △1   |
| 終身会員   | 79      | 81      | △2   |
| 特別会員   | 11      | 11      | 0    |
| 名誉会員   | 2       | 2       | 0    |
| 小計     | 230     | 239     | △9   |
| A会友    | 2,451   | 2,691   | △240 |
| B会友    | 3,798   | 3,609   | +189 |
| 地方会友   | 904     | 914     | △10  |
| ジュニア   | 29      | 38      | △9   |
| 終身会友   | 87      | 87      | +0   |
| 小計     | 7,269   | 7,339   | △70  |
| 総計     | 7,499   | 7,578   | △79  |
| クラブ    | 95      | 98      | △3   |

#### ② 会員・会友向け刊行物の発行

- ・ 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行した。

『JCBL BULLETIN』（会報）隔月刊年6回奇数月1日に発行

部数：7,700部（1～4号）、7,600部（5～6号）

『JCBL HANDBOOK』

毎年5月1日発行、部数：7,900部

#### ③ JCBL ライブラリーの運営

- ・ 通常の新刊書に加え、欠落していた図書の追加購入を行った。

#### ④ キャンペーン

- ・ 会員・会友向けに「紹介キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者及び紹介者に QUO カードを進呈

実施期間：2019年度入会対象（2019年4月1日～4月30日）

2020年度入会対象（2020年1月1日～3月31日）

- ・ 一般向けに「新入会キャンペーン」を実施した。

実施内容：新入会者は会費1年間無料

実施期間：2019年度無料対象（2019年4月1日～2019年12月31日）

2019年度および2020年度無料対象（2020年1月1日～3月31日）

## 2. 理事会・会員総会

## (1) 理事会

| 開催日／出席等                                                 | 議事事項                                                                                                                                                        | 会議の結果                                               |
|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 第 55 回理事会<br>4 月 26 日<br>出席 11 名<br>欠席 2 名<br>監事出席 2 名  | 1. 第 54 回理事会議事録案の承認について<br>2. 正会員の申込について<br>3. 会員資格の喪失について<br>4. 2018 年度事業報告書および決算報告書について<br>5. 理事による利益相反取引の承認について<br>6. 第 8 回会員総会の招集について<br>7. 各委員会及び事業部報告 | 可決<br>承認<br>承認<br>会員総会への付議を決議<br>承認<br>承認<br>了承及び承認 |
| 第 56 回理事会<br>6 月 28 日<br>出席 12 名<br>欠席 1 名<br>監事出席 2 名  | 1. 第 55 回理事会議事録案の承認について<br>2. 四谷 BC からの依頼の件<br>3. 各委員会及び事業部報告                                                                                               | 可決<br>承認<br>了承及び承認                                  |
| 第 57 回理事会<br>8 月 23 日<br>出席 12 名<br>欠席 0 名<br>監事出席 2 名  | 1. 第 56 回理事会議事録案の承認について<br>2. 会員の逝去及び退会について<br>3. 各委員会及び事業部報告                                                                                               | 可決<br>了承<br>了承及び承認                                  |
| 第 58 回理事会<br>10 月 25 日<br>出席 12 名<br>欠席 0 名<br>監事出席 2 名 | 1. 第 57 回理事会議事録案の承認について<br>2. 理事及び監事立候補受付会報案内、役員候補選出委員会の設置及び委員長の選出について<br>3. 各委員会及び事業部報告                                                                    | 可決<br>承認<br><br>了承及び承認                              |
| 第 59 回理事会<br>12 月 20 日<br>出席 11 名<br>欠席 1 名<br>監事出席 2 名 | 1. 第 58 回理事会議事録案の承認について<br>2. 2020 年度予算案および事業計画について<br>3. 各委員会及び事業部報告                                                                                       | 可決<br>継続審議<br>了承及び承認                                |
| 第 60 回理事会<br>1 月 24 日<br>出席 11 名<br>欠席 1 名<br>監事出席 1 名  | 1. 第 59 回理事会議事録案の承認について<br>2. 会員の退会について<br>3. 2020 年度予算案および事業計画について<br>4. 各委員会及び事業部報告                                                                       | 可決<br>了承<br>継続審議<br>了承及び承認                          |
| 第 61 回理事会<br>3 月 26 日<br>出席 12 名<br>欠席 0 名<br>監事出席 2 名  | 1. 第 60 回理事会議事録案の承認について<br>2. 2020 年度予算案及び事業計画について<br>3. 各委員会及び事業部報告                                                                                        | 可決<br>承認<br>了承及び承認                                  |

## (2) 総会

| 開催日／出席等                                                         | 議事事項                                                                                                            | 会議の結果                  |
|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 第 8 回会員総会<br>5 月 25 日<br>総会構成員 240 名<br>出席 143 名<br>(委任状 116 名) | 1. 2018 年度の公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録について<br>2. 2019 年度の事業計画並びに予算案の報告について<br>3. 会計監査人の選任について | 承認<br><br>了承<br><br>選任 |

## 3. 組織運営

## ① 事業運営体制

- 2020 年度予算案の審議のために、2019 年 12 月 11 日に業務執行理事による業務執行会議を企画委員会と合同で開催した。各事業部から提出された予算案をまとめた予算案原案が提出され、この原案をもとに 12 月、1 月開催の理事会および 2 月開催の企画委員会において予算案を検討した。3 月 11 日に開催した企画委員会において 2020 年度予算案および事業計画をまとめ、3 月開催の理事会において承認した。
- 来年度以降も各事業部が予算編成を行い、それをまとめた時点で業務執行会議を開催し、各事業部の予算について拡大、縮小の審議を行う。その後の理事会および企画委員会では予算案について検討を行い、3 月開催の理事会で最終案を承認する手順を踏む。
- いくつかの規則の制定及び改訂を行った。
- 2019 年 11 月 2～4 日に事務局を虎ノ門実業会館四谷ビルの 1 階から同ビルの地下 1 階へ移転した。それに伴い、同ビルの地下 1 階の事務所、ディーリングスペース、会議スペース、及び図書スペースの全てに対する敷金として 1,200 万円を四谷ブリッジセンターに差し入れた。それに合わせて、四谷ブリッジセンターより長期貸付金の一部として 900 万円の返済が行われた。

## ② 事務局

- ほぼ隔週に事務局会議を開催し、事務局員の今後の予定、担当している業務の進捗状況などについて確認を行った。

## 4. 常設委員会・特別委員会

## ① 企画委員会

- 2018 年 6 月 22 日開催の第 49 回理事会において委員長指名により選任した以下のメンバーで構成されている。

委員： 吉田正（委員長）

（委員長が指名する委員）清水映樹、ロバート・ゲラー、寺本直志、仲村篤志、西田奈津子、古田一雄、柳澤彰子

アドバイザー：宮内宏顧問弁護士

- 定例委員会を、2019 年 4 月 10 日、6 月 5 日、7 月 10 日、9 月 11 日、11 月 13 日、12 月 11 日（業務執行会議と合同開催）、2020 年 1 月 8 日、3 月 11 日の合計 8 回開催した。
- 本委員会では、以下の課題に取り組んだ。
  - 2020 年度予算案審議・事業計画書作成
  - 2019 年度事業報告書作成
  - 会員および会友の競技会参加状況の確認および競技会活性化策の検討
  - JTOS の運用状況の確認および検討
  - その他、JCBL の運営全般に関わる事項

(1) 2020 年度予算案の審議については、業務執行会議との合同会議により、予算全体の方針の審議、競技会事業部、普及事業部などの担当業務執行理事による予算方針の説明、および事業部間調整が行われ、円滑に編成が行われた。  
また、2020 年度事業計画書についても、滞りなく作成された。

(2) JTOS については現在の運用状況および課題の確認を行った上で、今後の長期安定性の確保をテーマとして検討した。

② センター協議委員会

- ブリッジセンターの代表者と定期的に意見交換を行う協議会として、以下のメンバーにより構成されている。

委員：山田和彦（委員長）、齋藤陽子、浅越ことみ（普及事業担当理事）、ロバート・ゲラー（競技会事業担当理事）、高野英樹（事務局長）、仲村篤志（競技会事業部長）、大政哲人（管理部長）

- 原則として、奇数月にブリッジセンターの代表者との協議を行い、偶数月にそれを受けて連盟側委員による検討を行い、必要に応じて各委員会および理事会への連絡や要請などを行っている。
- 今年度に関しては、2020 年冬季 IMP リーグでの採用を目指して、IMP リーグ活性化のための施策を検討し競技委員会へ提言を行った。競技会や普及活動に関する情報の共有を行った。

③ 競技委員会

I. 競技会事業（競技会運営環境の整備）参照

④ 代表選抜委員会

- 国際競技会の日本代表の選抜方法及び代表選手への助成を検討する場として、以下のメンバーにより構成されている。

委員：橋本公二（委員長）、齋藤陽子、古川京司、高野英樹

- 今年度に関しては 2022 年アジア競技大会の代表選抜方法及び 2020 年 WBG 代表選手の強化について検討を行った。

⑤ ルール委員会

I. 競技会事業（競技会運営環境の整備）参照

⑤ 人事委員会

- 定例委員会を 2019 年 9 月 10 日に開催し、清水映樹参与および大政哲人国際交流事業部長の継続雇用条件について検討を行い、方針を決定した。また来年度事務局の構成について検討を行った。
- 定例委員会を 2020 年 2 月 28 日に開催し、2019 年度の職員の評価、2020 年度の職員の年俸支給額などについて検討を行い、来年度の職位を決定した。